

令和3年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート

※○数字は「令和3年度（2021年度）みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】	ページ
① みんなで支える里山整備事業	
・ みんなで支える里山整備事業	・・・ 1-1
・ 防災・減災対策緊急治山事業、地すべり防止施設管理サポート事業	・・・ 1-2
② 道路への倒木防止事業	・・・ 2
③ 河畔林整備事業	・・・ 3
④ 県民協働による里山整備・利用事業	
・ 里山整備利用地域活動推進事業	・・・ 4-1
・ 里山資源利活用推進事業	・・・ 4-2
⑤ 地域で進める里山集約化事業	・・・ 5
⑥ 地消地産による木の香る暮らしづくり事業	
・ 「子どもの居場所」木質空間整備事業	・・・ 6-1
・ 木工体験活動支援事業	・・・ 6-2
・ 木づかい空間整備事業	・・・ 6-3
・ 県産材公共サイン整備事業	・・・ 6-4
⑦ 薪によるエネルギーの地消地産推進事業	・・・ 7
⑧ 森林病虫害被害枯損木利活用（チップ化）事業	・・・ 8
⑨ 里山整備利用地域リーダー育成事業	・・・ 9
⑩ 森林セラピー推進支援事業	・・・ 10
⑪ エコツーリズムガイド人材育成事業	・・・ 11
⑫ 自然教育・野外教育推進事業	・・・ 12
⑬ 学校林等利活用促進事業	・・・ 13-1
⑬ 自然保育活動フィールド等整備事業	・・・ 13-2
⑭ まちなかの緑地整備事業	・・・ 14
⑮ 観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）	・・・ 15-1
⑮ 観光地等魅力向上森林景観整備事業	・・・ 15-2
⑯ 森林づくり推進支援金	・・・ 16
⑰ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・ 17
⑱ 森林（もり）の里親促進事業	・・・ 18
⑲ 地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	・・・ 19
⑳ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	・・・ 20

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	①-1 みんなで支える里山整備事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加しており、こうした災害を防ぐための森林整備は喫緊の課題。 また、過疎・高齢化が進む山村地域で里山管理の空洞化を抑制するためには、地域住民等による自立的・持続的な森林の利活用が重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 ③安全が確保される主要なライフライン等 概ね150箇所程度/5年間 <p>【取組により期待される効果】 間伐材の搬出量の増加、森林整備の実施を通じた防災意識の向上、地域住民の里山利活用の増加</p>

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 未整備の里山のうち、科学的知見に基づき「防災・減災」の観点から優先的に整備が必要な森林の間伐を推進 長野県ふるさと森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備・利活用を促進 		
	事業内容	事業主体	事業実績
	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のための間伐等 ②県民協働による里山の整備・利活用 ③ライフライン等保全対策 	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のための間伐等 636ha ②県民協働による里山の整備等 95ha ③ライフライン等保全対策 36箇所 (R3当初:35箇所、R元繰越:1箇所)
			令和3年度決算額 [うち森林税活用額] 455,463,100円 [455,463,100円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
									前年度繰越
事業コスト	予算額	前年度繰越	321,508	360,439	26,468	2,275	1,203	711,893	
		国費	108,446	112,838	0	0	0	221,284	
		森林税	213,062	247,601	26,468	2,275	1,203	490,609	
		当初	412,454	201,550	495,000	456,600	350,000	1,915,604	
		国費	116,806	0	0	0	0	116,806	
		森林税	295,648	201,550	495,000	456,600	350,000	1,798,798	R2は補正予算40,000千円含む
		合計	733,962	561,989	521,468	458,875	351,203	2,627,497	R3は他事業からの流用34,600千円含む
	国費	225,252	112,838	0	0	0	338,090		
	森林税	508,710	449,151	521,468	458,875	351,203	2,289,407		
	決算額	前年度繰越	321,508	242,729	26,466	2,275		592,978	
		国費	108,446	61,045	0	0		169,491	
		森林税	213,062	181,684	26,466	2,275		423,487	
		当初	52,015	167,139	492,624	453,188		1,164,966	
		国費	3,968	0	0	0		3,968	
森林税		48,047	167,139	492,624	453,188		1,160,998		
合計		373,523	409,868	519,090	455,463		1,757,944		
国費	112,414	61,045	0	0		173,459			
森林税	261,109	348,823	519,090	455,463		1,584,485			

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③ライフライン沿いの危険木の伐採	目標値 ①	1,290ha	1,800ha	950ha	795ha	795ha	4,300ha	
	目標値 ②	150ha	232ha	303ha	375ha	450ha	1,500ha	
	目標値 ③	—	18箇所	27箇所	19箇所	11箇所	55箇所	R4にR3からの繰越1箇所含む
	実績値 ①	115ha	803ha	808ha	636ha		2,362ha	
	実績値 ②	10ha	59ha	81ha	95ha		245ha	
	実績値 ③	—	63箇所	67箇所	36箇所		130箇所	R3にR2からの繰越1箇所含む

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・集落周辺に位置する森林の多面的機能の回復・維持・増進を図るために間伐636haを実施した。</p> <p>・里山整備利用地域において、森林と地域との関係性を再生し、自立的・持続的な森林管理の構築を図るための整備を実施した。</p> <p>・市町村からの要望に基づき、特に重要とされるライフラインの保全を図るため、危険木の伐採を実施した。</p> <p>(副次的な効果) 地域における課題解決に資する森林整備に支援することができた。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・税事業は補助率が9割のため所有者負担が少なく、地域の要望に応えやすい事業である。 ・ライフライン等保全対策を実施した箇所は、維持管理を薪の利用等の地域活動の一環として取組んではいかかがか。 ・工事看板等に森林税を活用している旨記載すれば県民への森林税のPRにつながるのではないかと。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	搬出間伐の増や単価の上昇により間伐に係る費用が増加したため、目標面積の達成が困難。地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。	・地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、森林税による地域への効果的な支援を検討していく。 ・工事看板やのぼり旗等、SNS等を活用した森林税のPRを実施していく。 【令和5年度以降は「防災・減災のための里山整備」及び「市町村と連携した森林等に関する課題の解決」のうち「ライフライン等保全対策」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	①-2 防災・減災対策緊急治山事業 ・地すべり防止施設管理サポート事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	R3 ~	E-mail	shinrini@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画 (しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による豪雨等により、山地災害が発生するリスクが高まっている。家屋、生活道路やライフラインに影響がある山地災害が発生した場合、県民生活に直結する事態であり、緊急に対応する必要がある。 ・台風に伴う暴風雨等により倒木や危険木が数多く発生している。防災・減災の観点において二次災害を防止するため、事前に森林整備を実施する必要がある。 ・近年の異常気象等により山地災害が発生するリスクが高まりをみせている中、これまで以上に地すべり防止施設の日常的な見廻りやきめ細やかな維持管理が必要である。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に迅速な対応をとることで、下流保全対象への被害防止や軽減を図る。 ・地すべり防止施設の点検・維持管理を実施することで、地すべり防止施設の適切な効果発現に寄与し、地すべりの再発を未然に防ぐ。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年8月大雨、9月大雨による災害時等に応急対策を実施し、保全対象への被害防止・軽減を図った。 ・保全対象に影響を及ぼす恐れのある荒廃森林において緊急的に森林整備を行い、災害の未然防止を図った。 ・地すべり防止施設の点検や維持管理を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	①森林整備及び応急対策 ②地すべり防止施設点検・維持管理	長野県	①森林整備及び応急対策:17箇所 ②地すべり防止施設点検・維持管理:5箇所	35,995,000円 [35,995,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越				0	0	0
当初予算					36,000	35,000	71,000	
補正予算						0	0	
合計(A)					36,000	35,000	71,000	
Aの財源	森林税				36,000	35,000	71,000	
	国庫支出金				0	0	0	
	その他				0	0	0	
決算額(B)					35,995		35,995	
次年度への繰越額(外数)					0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①森林整備及び応急対策 ②地すべり防止施設点検・維持管理	目標値	①			40箇所	20箇所	60箇所	
		②			5箇所	10箇所	15箇所	
		③						
	実績値	①			17箇所		17箇所	
		②			5箇所		5箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・17箇所で開催し、災害発生時の保全対象への被害防止・軽減や災害の未然防止を図った。 ・計画通り県下5箇所で開催し、地すべり防止施設の点検・維持管理をおこなった。</p> <p>(副次的な効果) ・荒廃山地の適切な復旧を図ることで、CO2吸収に貢献した。 ・地元住民に地すべり防止施設の点検・維持管理を委託することで、住民の防災意識向上につながった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・森林税の税収に限られた中で多額の予算を組んでいる状況である。本取組は一般財源のみで実施すべきではないか。 ・昨年度の災害で被災した地域において、公共事業で対応できない部分に森林税を活用して事業実施してもらいたい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨形態の変化により、災害の激甚化が懸念される。 ・地すべり施設においては、継続的な点検・維持管理が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き災害の迅速な対応や災害発生時の未然防止に役立てる。 ・計画箇所を増やし、地すべり防止施設の点検・維持管理を積極的に実施する。 <p>【令和4年度で事業終了】</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	②道路への倒木防止事業	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	R1 ~ R3	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画 (しあわせ信州創造プラン2, 0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・道路管理区域外(山林)の立木は所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、倒木の恐れがある危険木が多い。 ・台風等の異常気象時に倒木による通行止めが発生している。
目指す姿・成果目標	県管理道路沿線の道路区域外の危険木伐採 概ね20箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 危険木伐採により倒木による通行止めリスクの低減を図り、災害時の主要なライフラインが保全され、県民生活の安全・安心が確保される。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	異常気象時等に県管理道路沿線の道路区域外から道路へ倒伏する恐れのある危険木の伐採			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	道路への倒木防止(危険木伐採)	長野県	危険木伐採 5箇所	10,000,000円 [10,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0		0
当初予算			30,000	45,000	10,000		85,000	
補正予算			30,000				30,000	
合計(A)			60,000	45,000	10,000		115,000	
Aの財源	森林税		60,000	45,000	10,000		115,000	
	国庫支出金		0	0	0		0	
	その他		0	0	0		0	
決算額(B)		60,000	45,000	10,000		115,000		
次年度への繰越額(外数)			0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①道路への倒木防止	目標値	①	8箇所	8箇所	5箇所	21箇所	
		②					
		③					
	実績値	①	9箇所	10箇所	5箇所	24箇所	
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) 近年の台風等で道路への倒木被害があった路線やその周辺で危険木の伐採を行い、倒木による通行止めリスクを低減した。 (副次的な効果) 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・法面から道路へ木の枝が垂れ下がっている箇所は雨の日など気になるので、枝払いや伐採などの取り組みを続けてほしい。 ・松枯れの木が放置され、倒木により道路の安全が脅かされているので、この事業での効果は大きい。まだ、倒木の危険があるため、ぜひ事業を続けてほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	効果的な伐採を行い目標を達成できた。今後は、他事業にて優先順位の高い箇所から対応してまいりたい。	【令和3年度で事業終了】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	③河畔林整備事業	部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30～	E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	河川区域外の民地等の立木(河畔林)は、所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、細く倒れやすい木が密生し、豪雨時に倒れ流出し、橋梁部で川をせき止めるなど、水害の発生要因となる恐れがある。
目指す姿・成果目標	防災強化が必要な河畔林の整備 ・概ね75箇所程度/5年間(県管理河川) ・概ね100箇所程度/5年間(市町村管理河川)

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	防災強化が必要な河畔林のうち、災害時の危険性が高い箇所の河畔林の除間伐を推進			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	河畔林の整備	長野県、市町村	県管理河川の河畔林整備 24箇所 (R3当初14箇所、R2繰越10箇所) 市町村管理河川の河畔林整備 23箇所	98,527,000円 [98,527,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	20,286	4,313	38,527	0	63,126
当初予算		112,500	112,500	178,650	60,000	20,000	483,650	
補正予算		-5,600	0	0		0	-5,600	
合計(A)		106,900	132,786	182,963	98,527	20,000	541,176	
Aの財源	森林税	106,900	132,786	182,963	98,527	20,000	541,176	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		83,141	128,464	144,436	98,527		454,568	
次年度への繰越額(外数)		20,286	4,313	38,527	0		63,126	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県管理河川の河畔林の整備 ②市町村管理河川の河畔林の整備	目標値	① 9箇所	13箇所	14箇所	20箇所	5箇所	75箇所	目標値の合計(①75箇所②100箇所)は、R2年度までの実績を考慮し、R3年3月に改訂したもの。(上方修正)
		② 15箇所	15箇所	22箇所	20箇所	6箇所	100箇所	
		③						
	実績値	① 13箇所	20箇所	21箇所	24箇所		78箇所	R3実績にはR2からの繰越10箇所含む
		② 21箇所	23箇所	33箇所	23箇所		100箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 計画的に事業を実施し、成果目標を達成することができた。 (副次的な効果) 河畔林を除間伐したことで、農村風景の景観向上や市街地への獣の移動経路を阻害する対策に繋がる等の効果が得られた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	予算規模にバラつきがあり、5か年規模で策定した計画的な事業執行が困難な状況	個別箇所のフォローアップを実施し、年度計画の目標値の達成に向け事業を進める。 【令和5年度以降は「市町村と連携した森林等に関連する課題の解決」のうち「河川沿いの支障木等伐採」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	④県民協働による里山整備・利用事業 (里山整備利用地域活動推進事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	過疎化・高齢化が進む山村地域で里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化の抑制につながるような権利の調整を行いつつ、間伐等の整備を推進することが有効であり、こうした活動を県内全域で展開していくことが必要。
目指す姿・成果目標	住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。 【成果目標】 ・里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 ・里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	里山整備利用地域における地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など、里山の整備・利活用を推進。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	森林を活用した地域活動 (森林の調査、研修会、調査・計画作成等)	里山整備利用推進協議会	12地域	44,820,000 円 [44,820,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		9,800	18,050	44,000	42,000	32,382	146,232	
補正予算		-3,000	0		3,700	0	700	R3は流用による増
合計(A)		6,800	18,050	44,000	45,700	32,382	146,932	
Aの財源	森林税	6,800	18,050	44,000	45,700	32,382	146,932	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	4,744	23,731	41,946	44,820		115,241	R3は他事業からの流用2,820千円含む	
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①里山整備利用地域の認定	①	50地域	52地域	30地域	20地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	②	30地域	30地域	30地域	35地域	27地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	③							
②里山の整備・利活用に 取り組む里山整備利用地域数	①	42地域	36地域	20地域	4地域		102地域	
	②	24地域	25地域	34地域	12地域		95地域	
	③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 地域をまとめる人材の発掘及び住民等で構成される協議会の設立に時間を要したことにより、R3年度の認定数は4地域となり、累計は102地域となった。
	(副次的な効果) 里山整備利用地域での地域活動の認知度が高まってきたことにより、各地域で様々な取り組みが進んでいる。取組が進むことにより、他地域の取り組みを自らの地域の課題解決の参考にするなど、良い循環が生まれている。

県民会議・地域会議等からの意見	事業終了後の継続が課題と認識しているが、どのようにサポートしていけば引き続き地域で取り組んでいけると考えるか。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	課題 里山整備利用地域の認定が県内各地において進み、地域住民等の協働による活動が活発に行われるようになった。これらの活動が今後更に自立的・持続的なものとして定着するよう、必要な体制整備を後押しするとともに、より多くの県民が里山の森林に親しむことができるような仕組みづくりや、より多くの地域で様々な取組が進むよう、これまでの取組等の情報発信を進める必要がある。	今後の方向性 里山整備利用地域の活動が今後更に自立的・持続的なものとして定着するよう、活動の前提となる森林所有者等の合意形成や整備・利用計画の樹立の支援を行うとともに、優良事例のマニュアル化などを行い、他地域への同様の取組の展開を促進する。 【令和5年度以降は「県民が広く親しめる里山づくり」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	④県民協働による里山整備・利用事業 (里山資源利活用推進事業)	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 山村地域の里山の保全には、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化を抑制しつつ森林整備を図ることが重要。 住民共同による里山の整備を促進するとともに、木材利用や、教育、観光等の多面的な森林資源の利活用を進める事で、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築していく事が必要であり、資機材の導入支援や遊歩道の整備も必要。
目指す姿・成果目標	里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間 【取組により期待される効果】 ・間伐材の搬出量の増加、路網整備の促進 ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化、人材育成 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	資機材等の導入(チェーンソー、薪割り機、簡易ウインチ、移動式トイレ等)遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 4地域 事業利用地域12地域	13,660,950円 [13,660,950円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		33,750	26,350	22,050	20,700	8,748	111,598	
補正予算		-26,000	-17,450	-5,050	-6,900	0	-55,400	R3は流用による減
合計(A)		7,750	8,900	17,000	13,800	8,748	56,198	
Aの財源	森林税	7,750	8,900	17,000	13,800	8,748	56,198	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	7,111	8,515	16,508	13,661		45,795		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0		0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定	①	50地域	52地域	30地域	20地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	②	30地域	30地域	30地域	35地域	27地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	③							
②里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数	①	42地域	36地域	20地域	4地域		102地域	
	②	24地域	25地域	34地域	12地域		95地域	
	③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 認定利用地域のうち、12地域で里山整備に必要な初期の資機材導入等(薪割り機、簡易ウインチ、ウッドチップパー、刈り払い機、チェーンソー、歩道整備等)に対して支援を行った。 (副次的な効果) 里山の利活用を実施していく上で課題となっていた資機材の導入に対して支援を行ったことで、安全かつ持続的に活動を進める基盤が整った。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	身近な里山を県民の誰もが気軽に親しむためには、里山が適切に管理され、安全かつ有効に利用できる環境が整っていることが必要。そのためには、地域住民等による自立的・持続的な里山の森林管理体制の定着・強化を図っていく必要がある。	里山整備利用地域の活動が今後更に自立的・持続的なものとして定着するよう、資機材の導入等、必要な活動基盤整備に対する支援を行う。 【令和5年度以降は「県民が広く親しめる里山づくり」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑤地域で進める里山集約化事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の小規模個人有林等の整備を効率的かつ効果的に進めるためには、境界の明確化や森林所有者の同意取得を行い、施業を集約化するための条件整備が必要。 ・所有者の不在村化や境界の不明瞭などにより施業の集約化が困難な場合も存在するため、小規模個人有林等の整備を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加) ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、森林整備実施予定地の森林所有者の合意形成等を推進した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・整備が必要な里山等の集約化 ・森林境界の明確化 	森林組合、森林所有者の団体等	・里山等の集約化 247ha	3,726,000円 [3,726,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		14,400	8,000	5,600	6,750	6,750	41,500	
補正予算		-9,100	-3,700		-2,250	0	-15,050	
合計(A)		5,300	4,300	5,600	4,500	6,750	26,450	
Aの財源	森林税	5,300	4,300	5,600	4,500	6,750	26,450	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
	決算額(B)	4,911	3,941	5,017	3,726		17,595	
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③(参考)本事業による集約化実施面積	目標値	①	1,290ha	1,800ha	950ha	795ha	795ha	4,300ha	
		②	150ha	232ha	303ha	375ha	450ha	1,500ha	
		③	900ha	500ha	350ha	450ha	450ha	—	
	実績値	①	115ha	803ha	808ha	636ha		2,362ha	
		②	10ha	59ha	81ha	95ha		245ha	
		③	324ha	263ha	333ha	247ha		1,167ha	

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・小規模な個人有林が多いことが里山の森林整備が進みにくい要因となっている中、森林所有者の同意取得等を支援し、森林整備の実施に向けて247haの集約化が行われた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた地区説明会等が実施できず、同意取得が進まなかった例があった。 (副次的な効果)
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	整備が取り残された難しいところが未だに残っている。集約化の取組は是非継続されたい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な個人有林の森林整備が取り残されてきた中で、森林整備のための同意取得も取組みにくい箇所が残されている。 ・今後、里山の多面的な利活用を推進するためには、個人の同意取得だけではなく地域全体での合意形成も必要となる。 	里山整備利用地域の認定が進む中、今後は里山の利活用を一層推進するために必要となる地域の合意形成等への支援を行う。 【令和5年度以降は「県民が広く親しめる里山づくり」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (「子どもの居場所」木質空間整備事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長により良い効果をもたらすとされていることから、児童センターや商業施設等のキッズルーム等の「子どもの居場所」の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所の木造・木質化:概ね30箇所程度/5年間 子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置:概ね240箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	事業主体が運営する保育園・幼稚園・子育て支援センター、複合商業モール・飲食店等のキッズスペース等の「子どもの居場所」について、木造化・内装木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	①木造・木質化(補助率2分の1以内、上限補助対象事業費499万円) ②木の調度品・おもちゃ等設置(同4分の3以内、同50万円)	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①9箇所 ②60箇所	23,883,970円 [23,883,970円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		23,750	23,750	21,500	21,500	21,500	112,000	
補正予算		-2,500	-2,841	-1,000	0	0	-6,341	
合計(A)		21,250	20,909	20,500	21,500	21,500	105,659	
Aの財源	森林税	21,250	20,909	20,500	21,500	21,500	105,659	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		20,579	20,908	20,405	23,884		85,776	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	目標値	①	5箇所	5箇所	5箇所	8箇所	6箇所	30箇所	①目標値は概ね30箇所/5年間
		②	30箇所	30箇所	30箇所	75箇所	30箇所	240箇所	②目標値は概ね240箇所/5年間
		③							
	実績値	①	7箇所	9箇所	6箇所	9箇所		31箇所	
		②	57箇所	59箇所	60箇所	60箇所		236箇所	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 保育園・幼稚園・児童センター等を中心に、木造・木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置、いずれのメニューも目標の箇所数を上回る又は概ね同等の実績となった。 (副次的な効果) 市町村等が事業主体となることで、1施設あたりの事業規模は大きくないものの、当該市町村内の多くの施設(保育園・子育て支援センター等)に事業を活用していただくことができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	子どもたちが将来、家を建てる時に地域材を使うきっかけとしてほしい。
-----------------	-----------------------------------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	森林づくり県民税活用事業の認知度をこれまでよりさらに向上させるため、市街地や県民の生活、子どもたちに、身近に木を感じられるような事業の構築が必要。	事業内容を波及性の高い仕組みにしていく。 【令和5年度以降は「広く県民が利用する施設等の木造・木質化等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木工体験活動支援事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長に効果をもたらすとされていることから、県産材と身近に触れ合うための木製品づくり体験を支援していくことが重要。
目指す姿・成果目標	木工工作コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年(2022年度) 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	県内全域の小中学生等を対象とした木工体験活動(木工工作コンクール、木工教室等)や、小中学校や地域団体が行う木や森への理解を深める木工体験活動を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	①県域活動型(補助率4分の3以内・上限補助対象事業費105万円) ②地域活動型(同4分の3以内・同50万円)	①長野県木材青壮年団体連合会 ②市町村・学校・林業者団体・NPO法人等	①木工工作コンクールの開催支援等:1件(木工工作コンクール応募者数4,347人) ②県内各地の木工体験活動の支援:23件	6,346,000円 [6,346,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		7,050	8,550	8,250	7,400	7,400	38,650	
補正予算		-150	0	-1,000		0	-1,150	
合計(A)		6,900	8,550	7,250	7,400	7,400	37,500	
Aの財源	森林税	6,900	8,550	7,250	7,400	7,400	37,500	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		6,692	7,756	7,041	6,346		27,835	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①木工コンクール応募者数	目標値	①	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人		
		②							
		③							
	実績値	①	4,608人	4,307人	2,913人	4,347人		4,347人	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 児童の減少や協力学校の固定化により、目標は達成まではいかなかった。 (副次的な効果) 子ども主体の活動であるが、付き添いの大人に対しても木工体験の場を提供することができ、県産材利用の意識醸成を図ることができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	子どもたちが、将来、家を建てる時に地域材を使うきっかけとしてほしい。
-----------------	------------------------------------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	森林づくり県民税活用事業の認知度をこれまでよりさらに向上させるため、市街地や県民の生活、子どもたちに、身近に木を感じられるような事業の構築が必要。	事業内容を波及性の高い仕組みにしていく。 【令和5年度以降は「広く県民が利用する施設等の木造・木質化等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木づかい空間整備事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	R2 ~	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材利用の意識の向上のためには、身近な場所かつ波及効果が高い場所に県産材を利用し、県民に県産材の良さを実感してもらうことが重要。 新型コロナウイルスへの対策として、テレワークオフィス等の社会情勢に対応した新たな就業環境の整備や、ウィズコロナに対応した「DIY」による内装整備に注目が集まっていることから、オフィスや店舗等、多くの県民が利用する県有施設の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> オフィス・店舗等の木質化:概ね24箇所程度/3年間 多くの県民が利用する県有施設の木質化:概ね11箇所程度/3年間 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業主体が運営するオフィス・店舗等の既存施設のモデル的な内外装の木質化、木の調度品等の設置を支援。 県民の利用頻度の高いスペースの木質化、木の調度品等の設置を推進。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、調度品の設置 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①7箇所 ②3箇所	22,508,155円 [22,508,155円]

事業区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額			0	0	0	0
前年度繰越							
当初予算			40,800	49,350	32,250	122,400	
補正予算			-9,500	-22,600	0	-32,100	R3は流用による減
合計(A)			31,300	26,750	32,250	90,300	
Aの財源							
森林税			31,300	26,750	32,250	90,300	
国庫支出金			0	0	0	0	
その他			0	0	0	0	
決算額(B)			30,425	22,508		52,933	
次年度への繰越額(外数)			0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、調度品の設置 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置	目標値		8箇所	11箇所	8箇所	24箇所	①目標値は約24箇所/3年間	
	②		3箇所	3箇所	2箇所	11箇所	②目標値は約11箇所/3年間	
	③							
	実績値			4箇所	7箇所		11箇所	
	②			6箇所	3箇所		9箇所	
	③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、木の調度品の設置は、事業の募集時期により工期が制約されたため、目標の箇所数11箇所のところ、7箇所に留まり未達成 ・多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置は、目標の箇所数の3箇所でした。
	(副次的な効果) モデル性の高い木質空間の整備を促進することで、多くの県民の皆様が木の良さを体感でき、県産材利用への波及効果へつながった。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 木材生産者等への周知方法を検討してほしい。 建築関係者のみならず、木材を使用する事業者にも広く周知してほしい。 店舗等、波及効果が高い施設へ活用してほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	森林づくり県民税活用事業の認知度をこれまでよりさらに向上させるため、市街地や県民の生活、子どもたちに、身近に木を感じられるような事業の構築が必要。	事業内容を波及性の高い仕組みにしていく。 【令和5年度以降は「広く県民が利用する施設等の木造・木質化等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (県産材公共サイン整備事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出した間伐材等を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・本格的な“インバウンド大県”を目指しているが、県内観光地等の外国人観光客向け案内標識は十分に整備されていない。 ・森林県長野として、観光地や県産材の魅力を国内外に広くアピールしているとは言い難い状況。
目指す姿・成果目標	県産材の魅力を発信しつつ、外国人観光客等の利便性の向上を図る。 【成果目標】 県産材公共サイン等設置枚数:概ね250枚程度/5年間

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	事業を募集した結果、応募のあった2市村の案内標識10枚の作成を支援			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	県の方針に基づき、事業実施主体が設置する案内標識整備について、県産材利用を促すため、設計や製作に係る経費を支援	市町村 民間事業者等	案内標識41枚	3,203,405円 [3,203,405円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		10,540	10,000	23,025	10,000	5,000	58,565	
補正予算		-7,000	-1,000	-9,000	-6,000	0	-23,000	R3は流用による減
合計(A)		3,540	9,000	14,025	4,000	5,000	35,565	
Aの財源	森林税	3,540	9,000	14,025	4,000	5,000	35,565	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		2,837	179	3,010	3,203		9,229	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県産材公共サインの作成	目標値	① デザイン作成	63枚	63枚	117枚	42枚	250枚	H30年度は調査委託 R元年度以降は補助 ①目標値は概ね250枚/4年間
		②						
		③						
	実績値	① 基礎調査	6枚	10枚	41枚		57枚	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 事業実施を予定していた市町村において、予算を新型コロナウイルス感染症対策に優先的に執行しており、本事業の実施が先送りとなったことから、目標値には達しなかった。 (副次的な効果) 観光客だけでなく、地元住民に対しても分かりやすい公共案内標識を設置することで、来訪者の増加や県産材の魅力発信に繋がった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	関係事業者と連携し、広く周知した方がよい。
-----------------	-----------------------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	森林づくり県民税活用事業の認知度をこれまでよりさらに向上させるため、市街地や県民の生活、子どもたちに、身近に木を感じられるような事業の構築が必要。	【森林環境譲与税との関係性を考慮し、令和4年度で事業終了】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑦薪によるエネルギーの地消地産推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	再生可能エネルギー自給率				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・県産材を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・木材の地産地消や地消地産を推進する観点で、薪を流通させるための仕組みづくり等により里山資源をバイオマスエネルギーとして活用するための仕組みづくり等が必要。
目指す姿・成果目標	薪流通の仕組構築モデル件数:概ね10件程度/5年間 【取組により期待される効果】 身近な里山資源である薪が継続的に利用される仕組みを構築することにより、薪のさらなる普及を図り、里山の利活用を促進し、里山の持続的かつ自立的な維持管理を実現する。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	県内1地域において、本事業により薪の流通システム構築への取組を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・薪の先進地視察等 ・必要な機材の購入費 ・各種講習会・セミナーの開催 	市町村、NPO法人、公共的団体、林業者等が組織する団体等	・NPO法人八ヶ岳福祉農園が事業主体となり、1地域で実施	871,500円 [871,500円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	18,750	
補正予算		0	-2,400		-2,800	0	-5,200	R3は流用による減
合計(A)		3,750	1,350	3,750	950	3,750	13,550	
Aの財源	森林税	3,750	1,350	3,750	950	3,750	13,550	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		3,664	1,264	3,482	872		9,282	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①薪流通の仕組構築モデル件数	目標値	①	2件	2件	2件	2件	10件	
		②						
		③						
	実績値	①	3件	1件	3件	1件		8件
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 全体目標10地域に対して令和3年度までに8地域で事業を実施し、概ね目標通りの進捗となっている。 (副次的な効果) 子ども達の森林への関心と、その大切さの理解が深まった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	各地域で一定程度のモデルの創出ができた。	地域独自で、別の施策で支援していく。 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」等において対応】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑧森林病害虫被害枯損木利活用(チップ化)事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H30～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	山林に放置され、有効活用されていない松くい虫等森林病害虫被害枯損木の利活用が課題。枯損木は、水分が少ないため木質バイオマスの燃料チップとしての活用が有効。
目指す姿・成果目標	森林病害虫枯損木処理量7,000m ³ /2年間 【取組により期待される効果】 景観を損ねていた松くい虫等森林病害虫被害林が整備されることで、他の地域の整備に対する意欲の高揚と木質バイオマス資源としての有効活用が促進。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	市町村等が行う対象森林の調査、松くい虫等森林病害虫被害枯損木の伐倒・搬出、木質バイオマス燃料等の資源化に対する取組に支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	・松くい虫等森林病害虫被害枯損木の伐倒 ・チップ化施設への伐倒木運搬	市町村、林業事業者	5,732m ³	100,000,000円 [100,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		18,000	18,000	18,000	100,000	8,000	162,000	
補正予算		-11,434	-7,476	-18,000		0	-36,910	
合計(A)		6,566	10,524	0	100,000	8,000	125,090	
Aの財源	森林税	6,566	10,600	0	100,000	8,000	125,166	R2は財源を新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用(※)
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		6,566	10,524	0	100,000		117,090	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①取組を行う市町村 ②森林病害虫枯損木処理量	目標値	① 10市町村	10市町村	10市町村			51市町村	R2実績値は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金による(参考値)
		②			3,500m ³	581m ³	7,000m ³	
	実績値	①	5市町村	6市町村	11市町村		33市町村	
			(実数累計4市町村)	(実数累計7市町村)	(実数累計13市町村)		(実数累計13市町村)	
	②			8,937m ³ ※	5,732m ³		14,669m ³	

※森林病害虫被害枯損木の利活用に係るモデル的な取組を支援してきたところ、新型コロナウイルス感染症の発生により林業をとりまく状況が変化し、製材や合板に使用する丸太の需要が激減したことにより、林業事業者において従事者の業務確保が困難となったことから、需要が旺盛なチップの活用を図る当事業について令和2年度のみ当該交付金を活用し、林業従事者の仕事の確保を図った。

目標に対する成果の状況	(達成状況) 目標に対する達成状況:164% 令和2年度から県内の木質バイオマス施設へ効率的に枯損木を供給するため、事業主体に林業事業者を追加し、枯損木の処理と利活用を推進した。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・各市町村が個別の課題解決のために取り組めるのはよい仕組み。 ・森林病害虫被害枯損木について、利活用の結果を県民へ情報発信したほうがよい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	課題 ・皆伐後の樹種転換に向けた再生林のためのコスト負担 ・枯損木がFITの未利用材の区分でないため、発電施設との調整が必要	今後の方向性 県内の木質バイオマス発電施設などへのチップ需要に対し、枯損木を資源化することは有効であるため引き続き事業を推進 【令和5年度以降は「市町村と連携した森林等に関連する課題の解決」のうち「病害虫被害対策」として実施】
--------------------	---	--	---

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑨里山整備利用地域リーダー育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、森林管理の空洞化も深刻さを増していることから、住民協働による里山の整備・利用を推進することが必要であり、それを支える地域の人材の活用と育成が重要である。
目指す姿・成果目標	森林の整備や多面的利活用を推進するリーダーや多くの関係者をコーディネートする人材を育成するとともに、NPOや自主的な森林づくりに取り組む方々など森林づくりに関わる人々の力を結集し、地域主体の持続的な森林の整備利用を推進する。 ・地域リーダーの育成 概ね150人程度/5年間 ・森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人程度/5年間

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の利活用や木育など、多様なテーマを設定した研修会を開催した。 ・地域リーダーとなる人材をはじめ、里山管理活動を担う地域住民も参加した安全技術取得のための研修を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	地域リーダー、里山管理人材の育成研修	長野県	研修会 21回	3,080,000円 [3,080,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		2,751	2,611	2,621	3,119	3,342	14,444	
補正予算		-1,340	-521			0	-1,861	
合計(A)		1,411	2,090	2,621	3,119	3,342	12,583	
Aの財源	森林税	1,411	2,090	2,621	3,119	3,342	12,583	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		623	1,651	2,585	3,080		7,939	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域リーダー ②里山管理利用人材	①	30人	30人	30人	40人	30人	150人	
	②	900人	900人	900人	1,200人	900人	4,500人	
	③							
実績値	①	30人	20人	63人	26人		139人	
	②	220人	739人	317人	543人		1,819人	
	③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・県内各地において、研修・講習会等を合計32回開催し、延べ543人が参加した。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加人数を制限することもあり、延べ参加人数が伸びなかった。</p> <p>(副次的な効果) ・参加者へ実施したアンケート調査の結果から、森林に対するの関心事、ニーズを知ることができた。 ・過去に講習を受けた方が、今度は講師側に回るなど、技術や知識の伝承が見られる。 ・林業士が講師を務めることがあり、活躍の場の一つとなっている。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	森林づくりに関わる人材の育成について、森林の楽しみ方、活用の仕方は多様化しているので、もっと多様な人材の育成を実施してほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・講演内容に対する要望が、森林整備や活用だけに留まらず、楽しみ方や触れ合いの仕方など幅広くなり、多様化している。 ・一方で、チェーンソーの扱いや伐倒の仕方が自己流である方が未だに存在しており、重大事故に繋がる危険性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備や活用のみに限定せず、健康利用、観光利用など多様なニーズの応える研修・講演の実施 ・安全衛生管理に係る基本的な研修の継続 ・知識・技術を分かりやすく伝えるための研修やイベント企画など森林サービス産業に役立つ研修の実施 ・林業士など既存リーダーの人材活用 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑩森林セラピー推進支援事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成、4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	本県の豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、多様な県民ニーズに応え、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。とりわけ、「森林セラピー」は、農林業・観光・医療の各分野の連携が可能であり、森林の利活用と地域の活性化策として期待されている。
目指す姿・成果目標	全国65箇所の基地のうち、県内に10箇所(最多)が存在する「森林セラピー県」として、森林セラピーの利用を促進するため、関連する産業(観光、健康、環境、産業)との連携の強化とセラピー基地等の魅力向上を図る。 ・コーディネーターの育成 ・森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会を開催し、基地間の情報共有を図るとともに、人材育成や施設整備の方向性等の検討を行った。 森林セラピーのコーディネーター等の育成プログラムやガイドツールの開発・制作を行うとともに、基地の安全性と利便性の向上を図るための修景林整備(支障木等の伐採)や歩道・看板・多目的バイオマストイレ等の施設整備を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会開催 ガイド、コーディネーター等人材育成研修会の開催 施設整備 	長野県市町村	<ul style="list-style-type: none"> 協議会:1回 ガイド、コーディネーター等人材育成研修の開催計5回 施設整備:6箇所 	13,243,026円 [13,243,026円]

事業コード	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
			前年度繰越	0	0	0	0	0	
予算額	当初予算		17,521	38,309	20,700	15,916	9,138	101,584	
	補正予算		0	-21,272	-3,040	-1,132	0	-25,444	
	合計(A)		17,521	17,037	17,660	14,784	9,138	76,140	
	森林税		17,521	17,037	17,660	14,784	9,138	76,140	
Aの財源	国庫支出金		0	0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	0	
	決算額(B)		16,662	12,656	16,770	13,243		59,331	
ト	次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①コーディネーター育成 ②森林セラピー基地の整備	目標値	①					10人		
		②	実施4箇所	実施9箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	10箇所	
	実績値	①	-	-	-	-			
	②	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所		実施のべ24箇所		
			(実数累計6箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	重複を除いた実数の累計	

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・森林セラピー基地等協議会において、上松町の取組や森林セラピーの最先端の研究報告の講演などで情報共有を図り、次年度へ各基地取組へのつながりが図れた。 ・森林セラピー基地の整備は6箇所において実施した。ガイド、およびコーディネーター育成研修を計5回開催</p> <p>(副次的な効果) ・研修及び施設整備の実施により、各基地の利用者受け入れ体制の整備が進んでいる。 ・コーディネーターやガイドを活用した森林セラピー基地の利用者は増加傾向(H29 6,500人→H30 7,023人→R元 7,195人)にあったが、R2についてはコロナ禍の影響で2758人と4割まで減少。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	森林の楽しみ方は多様化しており、森林セラピーの枠組みを外し、もっと多様な人材の育成へと広げてほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い森林セラピープログラムの提供を行うための人材育成が必要 施設の老朽化が見られるため、施設整備への要望が大きい。 森林の利活用への期待は多様化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の協議会での検討を踏まえ、各基地の中核的な役割を担うコーディネーターを育成するため、コーディネーターの段階的な育成プログラムによる研修を実施する。 ガイドについては、観光部・環境部と育成の連携を行うとともに、レベルの検討、開催地の検討、活躍の場の創出を行うことにより幅広く受講者を確保できるよう取り組む。 基地毎の事業量も精査しつつ、必要な施設整備を実施する。 多様化している森林の利活用への期待に対応できるよう、幅広い取組を対象とした人材育成や支援策等を検討する。 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑪エコツーリズムガイド人材育成事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
事業区分		3 森林づくりに関わる人材の育成	実施期間	R1 ~	E-mail
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり 4-5 地球環境への貢献				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要 エコツーリズムなど、森林資源を有効に活用し、観光や健康、環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要
目指す姿・成果目標	エコツーリズムガイドの育成 80名/4年間 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全意識の向上 周遊型観光の促進と県内知名度の向上

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	森林をはじめとした自然資源を持続的に活用できる人材を育成し、自然体験の機会の充実を図るため、エコツーリズムガイド育成研修会を美ヶ原自然保護センターで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業実施を中止。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	エコツーリズムガイド研修会の開催	長野県	・研修会開催:3日間	0円 [0円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0	0	0
当初予算			1,672	1,564	1,979	1,880	7,095	
補正予算			0	-1,564	-1,979	0	-3,543	
合計(A)			1,672	0	0	1,880	3,552	
Aの財源	森林税		1,672	0	1,979	1,880	5,531	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	決算額(B)		1,540	0	0		1,540	
	次年度への繰越額(外数)		0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①エコツーリズムガイドの育成	目標値	①				▶	80名		
		②							
		③							
	実績値	①		29名	0名	0名		29名	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 30名のエコツーリズムガイドの人材育成を行う予定であったが、研修会の実施中止に伴い未達成。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	もっと多様な人材の育成に広げてほしい。森林の楽しみ方は多様化している。
-----------------	-------------------------------------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	令和3年度以降の事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底や令和元年度の研修会参加者の意見も踏まえ、研修会のカリキュラムを検討する。	・ガイド研修会を引き続き開催し、人材の育成を行う。 ・研修会については、開催内容を検討し、早期の募集・周知を行うことで、多くの受講者を確保できるよう取り組む。 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑫自然教育・野外教育推進事業	部局	教育委員会	課・室	学びの改革支援課
		実施期間	R1 ~	E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進 1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊かな長野県に住んでいても、子供の自然体験の頻度は全国と同じ。 家の中で、体力を使わず、他者との交流が少ない時間を多く過ごしている。 子供の学校外での自然体験活動への参加は二極化し、経験の格差が広がる。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 信州ならではの豊かな自然を教育資源と捉え、幼保小中高を通じて自然の中での直接体験や仲間とのふれあい、自然からの学びをとおり、社会の急激な変化に適応し、たくましく「生き抜く力」を育成する。「自然を通して生き抜く力の育成」を目指す。 モデル的に自然教育プログラムを実施する学校30校/5年間

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	本県の強みである豊かな自然の特性を生かし、子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にできる心」を育むため、モデル校において自然教育・野外教育プログラムの実践検証を行い、成果の普及を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> プログラム推進校が行う、プログラム実践及び発展的実践への外部指導者の派遣 プログラムの評価・検証・改善 	長野県教育委員会	プログラム推進校5校 有識者による実践校現地視察	478,390円 [478,390円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0	0	0
当初予算			1,163	1,794	1,792	862	5,611	
補正予算			0			0	0	
合計(A)			1,163	1,794	1,792	862	5,611	
Aの財源	森林税		1,163	1,794	1,792	862	5,611	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
決算額(B)			241	285	478		1,004	
次年度への繰越額(外数)			0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①モデル校による自然教育・野外教育プログラムの実践検証	目標値	①	モデル校指定8校	プログラム推進校14校程度	プログラム推進校14校程度	プログラム推進校7校程度	30校
		②					
		③					
	実績値	①	モデル校指定6校	プログラム推進校1校	プログラム推進校5校		13校
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・令和元年度から、プログラム推進校として、延べ13校が外部指導者を活用した自然教育・野外教育に取り組んできた。(「モデル校」の名称は令和2年度から「プログラム推進校」に改名)</p> <p>・令和元年度から、延べ49名の外部指導者を派遣</p> <p>(副次的な効果) ・これまでボランティアとして学校と関わってきている各種団体の外部指導者への支援を行った。</p> <p>・複数校に関わる団体や教育委員会等からの申込みや問い合わせがあった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 自然教育・野外教育プログラムの充実 プログラム実践校の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と連携して取組を行おうとする教育委員会、複数校に関わる各種団体等による申し込みを受け付ける。 前期、後期の2期に分けての募集を継続する。 ホームページ等で、プログラム推進校の取組を周知する。 「アクティビティとプログラム集」の充実を図る。 <p>【令和4年度で事業終了】</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑬学校林等利活用促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2, 0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に自然の中で遊んだりする経験が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向があるという調査研究報告があることから、教育における森林の利活用を推進することが必要であり、手入れがされてこなかった学校林については、整備し利活用していくことが必要。 学校林は森林の多面的機能を学ぶ貴重な場であり、身近に森林がある本県の特性を活かし、自然・野外教育を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	長期間未整備のため利用困難な学校林約60箇所程度/5年間の整備・利活用(令和3年3月改正) 【取組により期待される効果】 森林を活用した森林環境教育の充実及び安全性の確保

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒の森林・林業への親しみや理解を深め、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林を整備するとともに、整備後の学校林での活動を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	学校林の整備(除間伐等)・利活用	市町村、学校、PTA等	学校林の整備 10箇所 学校林の利活用 11箇所 (重複して実施している箇所があるため、全体では18箇所)	7,557,014円 [7,557,014円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		12,550	17,975	17,975	15,176	13,594	77,270	
補正予算		-8,000	-7,875	-3,250	-4,700	0	-23,825	
合計(A)		4,550	10,100	14,725	10,476	13,594	53,445	
Aの財源	森林税	4,550	10,100	14,725	10,476	13,594	53,445	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		4,010	9,447	13,719	7,557		34,733	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①長期間未整備のため利用困難な学校林を整備	目標値	①	16箇所	16箇所	16箇所	29箇所	33箇所	60箇所	重複を除いた実数の累計
		②							
		③							
	実績値	①	6箇所	15箇所	23箇所	18箇所		62箇所	
		②(実数累計6箇所)	(実数累計19箇所)	(実数累計35箇所)	(実数累計42箇所)		(実数累計42箇所)		
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) <ul style="list-style-type: none"> 10校の学校林で危険木の伐採や除間伐等の森林整備を行い、児童・生徒が森林内で安全に活動できる機会が広がった。 整備後の学校林での活動に必要な資機材の導入や指導者の受入を11校で支援した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、学校林活動を予定どおり実施できなかった学校も多数あった。 (副次的な効果) <p>学校林整備の過程を児童・生徒が見学、体験することで、森林環境教育の機会となっている。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 森林の子どもたちに対する教育利用は大切と認識。学校林の整備の促進だけでなく、その先の利用までセットで考えてほしい。 学校林という場所に限定せず森林環境教育そのものに対象を広げてほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 学校林の整備が進むに従い、教育利用へのニーズが更に顕在化し、学校林活動を実施するために必要な資機材の導入・指導者の受入等のニーズが増している。 学校林を保有する学校は限られることから、森林の教育利用の場を学校林に限定せず幅広く捉えることが森林の多面的な利活用の観点から望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備後の学校林等を継続的・効果的に活用していくため、活動支援にも重点を置き、資機材の導入や地域人材とのマッチングにより、活動体制の充実を図っていく。 地域の里山や指導人材を児童・生徒への森林環境教育に有効に活用できるよう、事業運用の改善を図る。 【令和5年度以降は「やまほいくのフィールドや学校林の整備等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑬自然保育活動フィールド等整備事業	部局	県民文化部	課・室	こども・家庭課
		実施期間	H30～	E-mail	katei-shien@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	合計特殊出生率				
総合的に展開する重点政策	5-4 若者のライフデザインの希望実現				

1 事業の概要

現状	県独自の制度である「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」による認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境の充実が必要。
目指す姿・成果目標	整備が必要な森林を自ら所有又は賃借して使用する認定園等、約25園程度/5年間の整備 【取組により期待される効果】 信州やまほいく認定園の増加

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備(林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理) ・トイレの設置、チップ敷き、歩道整備等 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道、木道整備 ・危険木の除去、ウッドチップ敷設 ・付帯施設(トイレ、東屋等)の整備等 	信州型自然保育認定園	フィールド整備 8箇所	4,785,311円 [4,785,311円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
Aの財源	森林税	5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		4,623	4,602	4,668	4,785		18,678	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
信州やまほいく認定園の活動フィールドの整備 約25園程度/5年間	目標値	① 8園	8園	8園	8園	8園	40園	
		②						
		③						
	実績値	① 9園	5園(6カ所)	10園	8園		32園	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 要望があった8園でフィールド整備7カ所、付帯施設整備1カ所を実施した。</p> <p>(副次的な効果) 自然保育を行う上で障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことにより、子どもたちが安全に自然体験活動を行うことができるようになった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	子どもたちに対する森林の教育利用は大切である。整備の促進のみではなく、その先の利用としてソフト事業や人材育成についても引き続き取組が必要。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	今後も引き続き、認定園に対し制度の周知等を行い、制度の普及促進につなげていく必要がある。	認定園に対し制度を十分に周知し、積極的な活用を呼びかける。 【令和5年度以降は「やまほいくのフィールドや学校林の整備等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑭まちなかの緑地整備事業	部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
		実施期間	H30～	E-mail	toshi-machi@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・全国都市緑化信州フェアを契機に、市街地においても、木々に親しめる緑地整備を集中的に推進することが必要。 ・加えて、市街地の緑地は、ヒートアイランド現象の緩和や大気浄化などの生活環境の保全に寄与するとともに、安らぎや癒し効果により快適な暮らしを支え、長野県らしい景観を提供することから、適切な整備が必要。
目指す姿・成果目標	県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに木々を身近に感じられる魅力的な緑地が創出されることによる、都市の魅力の向上。 ・活動・交流の場としての利用によって地域の元気づくりを推進するとともに、緑化に関する人材発掘・育成等によって持続可能な緑化を推進。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	市街地における木々に親しめる緑地の整備を集中的に推進するため、市町村及び民間団体が行う緑地の整備を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	緑地整備(樹木・芝等の植栽、花壇・ベンチ等の施設整備)	市町村 民間	緑地整備 1箇所	3,000,000円 [3,000,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		4,000	5,750	2,000	4,000	6,000	21,750	
補正予算		-2,082	-2,000	-1,000	-1,000	0	-6,082	
合計(A)		1,918	3,750	1,000	3,000	6,000	15,668	
Aの財源	森林税	1,918	3,750	1,000	3,000	6,000	15,668	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		1,760	3,750	1,000	3,000		9,510	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①市街地の緑化整備	目標値	①	4箇所	4箇所	2箇所	2箇所	4箇所	概ね25箇所程度
		②						
		③						
	実績値	①	4箇所	2箇所	1箇所	1箇所		8箇所
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 1箇所の緑地整備を実施することで魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与した。 (副次的な効果)
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	目標達成率が低い理由として、整備後の維持管理や、別の利用形態で土地を活用するなど土地所有者との調整で実施困難となった箇所がある。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	4か年を経過し、事業実施に至ったのは8箇所のみである。 (目標は5か年で25箇所)	令和3年度までの成果等を検証し、事業の見える化、他地域への拡大に取り組む。 ・事業実施事例をホームページ掲載等により広報する。 ・事業者にアンケート等を行い、事業の改善点を把握する。 ・市町村に制度の説明や事例を紹介し、事業の活用を推進する。 【令和5年度以降は「まちなかの緑・街路樹の整備」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑮観光地の景観整備 (県単道路橋梁維持修繕費)	部局	建設部	課・室	道路管理課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の活用	実施期間	H30 ~	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 ・地域の景観に合致した街路樹の整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間【取組により期待される効果】 ・観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上 ・街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格保有者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	観光地周辺の街路樹整備	長野県	街路樹整備 7km	15,000,000円 [15,000,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	4,000	0	0	4,000
当初予算		16,000	20,000	20,000	15,000	4,000	75,000	
補正予算		0	20,000			0	20,000	
合計(A)		16,000	40,000	24,000	15,000	4,000	99,000	
Aの財源	森林税	16,000	40,000	24,000	15,000	4,000	99,000	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	16,000	36,000	24,000	15,000		91,000		
次年度への繰越額(外数)	0	4,000	0	0		4,000		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①街路樹整備	目標値	① 延べ10km	延べ10km	延べ10km	延べ7km	延べ1.5km	延べ40km	R2にR元からの繰越3km含む
		②						
		③						
	実績値	①	14km	10km	14km	7km	45km	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 国営アルプスあづみの公園や諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。</p> <p>(副次的な効果) 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<p>・観光地周辺の街路樹整備について、地域に求められる緑化機能・景観を作るための樹種の選定や植樹後の維持管理について課題がある。</p>	<p>・専門家の意見を聞きながら、街路樹の適正な維持管理に努めてまいりたい。</p> <p>・まちなかグリーンインフラと協同して、効率的・効果的な街路樹整備を行い、景観の維持に努めたい。</p> <p>【令和5年度以降は「まちなかの緑・街路樹の整備」として実施】</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑮観光地等魅力向上森林景観整備事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した間伐の実施や、地域の特性・ニーズに合わせた間伐、除伐、竹林整備等が必要。
目指す姿・成果目標	地域の景観に合致した間伐等 概ね110ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 景観整備 ビューポイントの樹木の伐採 	市町村	21箇所計24haの事業を実施	34,996,500円 [34,996,500円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
Aの財源	森林税	7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
	国庫支出金	0	0	0		0	0	
	その他	0	0	0		0	0	
決算額(B)		7,605	43,479	44,694	34,997		130,775	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域の景観に合致した間伐等	目標値	①	17ha	29ha	29ha	30ha	9.6ha	110ha	
		②							
		③							
	実績値	①	11ha	43ha	30ha	24ha		108ha	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 各地域から予算を大幅に上回る要望を寄せられ、箇所数の限定や優先順位を決めながら事業を実施せざるを得ず、目標値には達しなかった。 (副次的な効果) 観光地としての魅力が向上しただけでなく、地域の関係者にとっても里山に改めて関心を持つきっかけとなっている。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	観光地の周辺における街路樹整備事業で桜の剪定を実施したが、森林税活用事業であることを積極的にPRすべき。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
主要観光地の景観を損ねている森林や、高速道路沿線の松くい虫被害木(枯損木)対策など、本事業のニーズは依然として県内各地で高い状況にあり、予算を上回る要望が寄せられている。		引き続き、本県の豊かな森林資源を活かした観光地等の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を進める。 【令和5年度以降は「市町村と連携した森林等に関連する課題の解決」のうち「観光地の景観や緩衝帯の整備」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑩森林づくり推進支援金	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	5 市町村に対する財政調整的視点での支援				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じて市町村が行う森林整備等の取組が不可欠。 森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、財政調整的な支援は不可欠。
目指す姿・成果目標	全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること。 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> 身近な課題解決への取組による森林への関心の向上。 身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	森林に関する各地域の様々な課題解決のために市町村が独自に行うきめ細やかな取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数 77市町村	89,238,000円 [89,238,000円]

事業コード	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越		0	0	0	0	0	0
当初予算		90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000		
補正予算		0	0		0	0	0		
合計(A)		90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000		
Aの 財 源	森林税		90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	0	
決 算 額(B)		89,978	88,870	90,000	89,238		358,086		
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①実施市町村数	目 標 値	①	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	
		②						
		③						
	実 績 値	①	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村		77市町村
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 国や県の補助事業の対象とならない松くい虫対策や、野生鳥獣被害防止のための緩衝帯整備、間伐材の利活用等といった、各地域の様々な課題に応じた独自の取組が全ての市町村で行われた。 (副次的な効果) 市町村における地域課題解決のための取組及びその内容に係る情報発信に一定の進展があった。
-------------	---

県会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ある公園を久しぶりに訪れたところ、この事業で森林整備され非常にきれいになっており、眺望もよくなった。 墓地での松くい虫対策の事例があるが、墓地や住宅周辺等にある危険木の伐採も実施できないだろうか。 整備箇所(公園)に案内看板等を設置した。訪れた方に対する県産材・間伐材活用のよいPRになっている。
----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	課題	今後の方向性
	事業実施後に市町村は、みんなで支える森林づくり地域会議の意見も踏まえながら検証評価を行う必要があるが、成果を数値化することや新たな地域課題を把握するための支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村の事業評価方法について、数値化等の客観的資料の例示を行う。 事業内容や実施地域の偏りが生まれないように、事業の整理や新たな課題の掘り起こしに向けて、施業履歴や地域課題の把握を図るよう市町村に促す。 【令和5年度以降は定額配分を見直し地域において必要性の高い事業をメニュー化】 	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑰みんなで支える森林づくり推進事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県民アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が73.5%に及び、特に若年層の理解が広がっていないことから、より積極的かつ効果的な広報が必要。 チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 森林税の使途の認知度30% 【取組により期待される効果】 森林税を活用した取組の増加

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、SNS、イベント等による広報及び森林税の見える化を図るため地域の実情に応じた広報・普及啓発を実施。 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聴くため、県民会議及び地域会議を開催。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット、ラジオ等でPR 各地域の広報誌・イベント等でPR 県民会議、地域会議の開催 	長野県	<ul style="list-style-type: none"> 動画投稿サイトでの広告動画放映 県民会議2回、地域会議17回開催 林業大学校学生寮机椅子設置 	9,980,801円 [9,980,801円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		10,000	10,000	11,181	13,711	13,437	58,329	
補正予算		0	0	-554	-568	0	-1,122	
合計(A)		10,000	10,000	10,627	13,143	13,437	57,207	
Aの財源	森林税	10,000	10,000	10,627	13,143	13,437	57,207	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		8,489	7,678	4,726	9,981		30,874	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①森林税の使途の認知度	目標値	①	30%	30%	30%	30%	30%	
		②						
		③						
	実績値	①	45.5%	43.6%	37.7%	—		37.7%
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 令和4年9月を目途に部独自の森林税に関するアンケートを実施し、把握する予定。</p> <p>(副次的な効果)</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	納税通知書により森林税を知ったとする者が一定いるので、納税通知書に森林税に関するリーフレットを同封してはどうか。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、森林税の認知度を向上させるための取組を継続する必要がある。 これまでの取組の成果を県全域に波及させることが必要 特に認知度が低い傾向にある、若者や女性の認知度を高めるための広報が必要 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの広報実績をもとに、広報効果が高い媒体を活用して、より効果的な広報活動を実施する。 動画やSNS等を活用して、若者や女性の認知度を高める広報を実施する。 第3期森林税の実績を様々な媒体により地域住民に知ってもらう広報を実施する。 【令和5年度以降も普及啓発、評価検証を実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑱森林(もり)の里親促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H15～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	近年、温暖化防止等の社会貢献や、福利厚生などを目的とした企業の森林づくりへの関心が高まっていることから、こうした企業による森林づくりを推進し、森林整備や都市部と山村の交流、森林への理解の促進を図ることが効果的である。
目指す姿・成果目標	県が仲介役となって、森林づくりへの参画を希望する企業のニーズに応じて地域とのマッチングを行い、「森林(もり)の里親」契約を締結する。 ・企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約の締結の掘り起こしに向けて企業とのオンライン協議や、イベント等でのPRパンフの配布を行った。 ・企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との現地調査等 ・契約前のプレ活動 ・企業向け講座の開催 	長野県	新規契約 4件	78,646円 [78,646円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
Aの財源	森林税	1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		749	155	54	79		1,037	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①新規契約件数	目標値	①	5件	5件	5件	5件	25件	
		②						
		③						
	実績値	①	5件	5件	3件	4件	17件	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) コロナ禍の影響もあり、現地での調査などが実施できなかったが、企業のニーズに応じて県が仲介役として地域選定や受け入れ側との調整を行った結果、目標には届かなかったが、4件契約できた。</p> <p>(副次的な効果) 企業との連携により森林づくりを行うことで、企業の社員と山村地域との交流を促すとともに、地域住民にとっても森林づくりに関心をもつ契機となった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・累積契約件数が増加するに従い、里親となる企業のニーズにあった受け入れ候補地や、契約の内容協議に時間がかかる傾向が強まっている。 ・SDGsの取り組みやゼロカーボン社会の構築に向けて、環境面でのメリットを当事業に期待する企業も増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備利用地域も含め、地域が主体的な活動を展開している地域を中心に、新たな受け入れ団体の掘り起こしを行う。 ・今後増加する主伐、再造林に向けた森林整備への里親企業からの支援と、再造林地を抱える団体等の新たな受け入れ先の掘り起こしを行う。 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	⑱地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	—				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 県産材を使うことが地球温暖化防止につながることを広くPRすることが必要。
目指す姿・成果目標	個人住宅や企業等の木質化でのCO2固定量の認証量:500t-CO2/年 【取組により期待される効果】 県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	県産材を使用した住宅や事業所の木造・木質化、木製品の二酸化炭素固定量を認証し、認証証書を発行。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	県産材住宅の施主や店舗等を木造・木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を認証	長野県	認証量 17.8t-CO2 (認証件数 5件)	20,061円 [20,061円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		565	567	400	400	400	2,332	
補正予算		0	0	0			0	
合計(A)		565	567	400	400	400	2,332	
Aの財源	森林税	565	567	400	400	400	2,332	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		235	246	25	20		527	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①CO2認証固定量	目標値	①	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	設定なし
		②						
		③						
	実績値	①	354t-CO2	205t-CO2	460t-CO2	17.8t-CO2		1,037t-CO2
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 令和3年度の実績は、前年度の実績(認証件数2件、認証固定量460t-CO2)より認証固定量は下回ったが、認証件数は上回った。 (※令和4年度まで5か年の成果目標は設定なし) (副次的な効果) 認証を受けた企業が環境貢献の一環として広報することにより、認証制度や木材利用の普及につながった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・県民等に制度が十分に浸透していない。 ・公共施設をはじめ、施設所有者に制度の説明をし周知が必要	県内外における本制度や木材のCO2固定の役割のPRなど、制度の普及・啓発を強化し、申請件数の増加を図る。 【令和5年度以降は「広く県民が利用する施設等の木造・木質化等」として実施】

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和3年度事業分)

事業名	②地球温暖化防止吸収源対策推進事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として取り組もうとするニーズが高まっている。
目指す姿・成果目標	・間伐等の森林整備によるCO2吸収量の評価方法を定め、企業等の森林整備活動をCO2吸収量で知事が評価・認証することにより、一層の企業等の参画による森林整備を促進する。

2 事業の実施状況

令和3年度の実施状況	・民間企業等のCSR活動を「見える化」するため、「森林(もり)の里親促進事業」で間伐等を実施した森林のCO2吸収量を県が評価・認証した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和3年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林のCO2吸収量認証	長野県	・CO2吸収量認定量 1,371t-CO2	108,562円 [108,562円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		471	375	375	471	457	2,149	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		471	375	375	471	457	2,149	
森林税		471	375	375	471	457	2,149	
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	
その他		0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	129	45	43	119		336		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0		0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2吸収認定量	目標値	① 4,000t-CO2	4,000t-CO2	4,000t-CO2	3,000t-CO2	3,000t-CO2	設定なし	
		②						
		③						
	実績値	① 2,010t-CO2	1,660t-CO2	1,293t-CO2	1,371t-CO2		6,334t-CO2	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 実績は目標の吸収量を下回る結果となったが、H20より継続して行われている事業であり、森林(もり)の里親企業等に対しある一定の認知が図られてきていると考えられる。 (副次的な効果) 本認証制度活用により、企業等は、CSR報告書への記載やPRが可能となり、企業等のイメージ向上につながられる。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	意見無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

(「今後の方向性」欄は令和4年11月22日公表の長野県森林づくり県民税に関する基本方針を踏まえた記載を含む)

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	今後も、引き続き森林(もり)の里親企業等に対し、制度の認知・普及の促進を図りながら事業を進めていく必要がある。	「森林(もり)の里親」企業等を対象に、森林の大切さや、森林の二酸化炭素吸収が地球温暖化防止に果たす役割等に関する普及啓発を行い、「森林CO2吸収評価制度」の活用促進を図る。 【令和5年度以降は「森林サービス産業など森林の多面的利用の支援」として実施】